

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	スカイ・ラプター	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.055	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：SKY RAPTOR

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：MYTHIC JACKAL

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

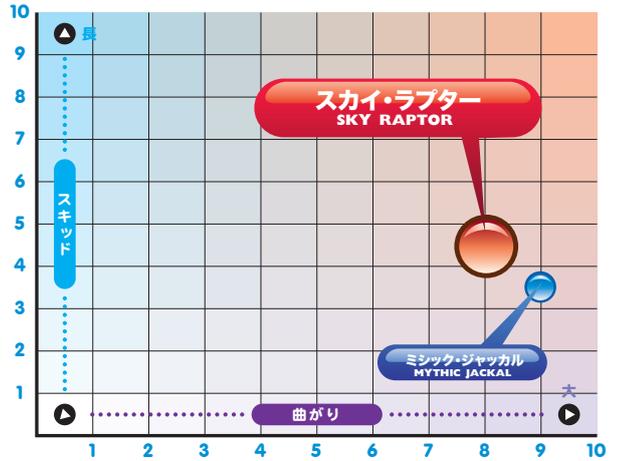
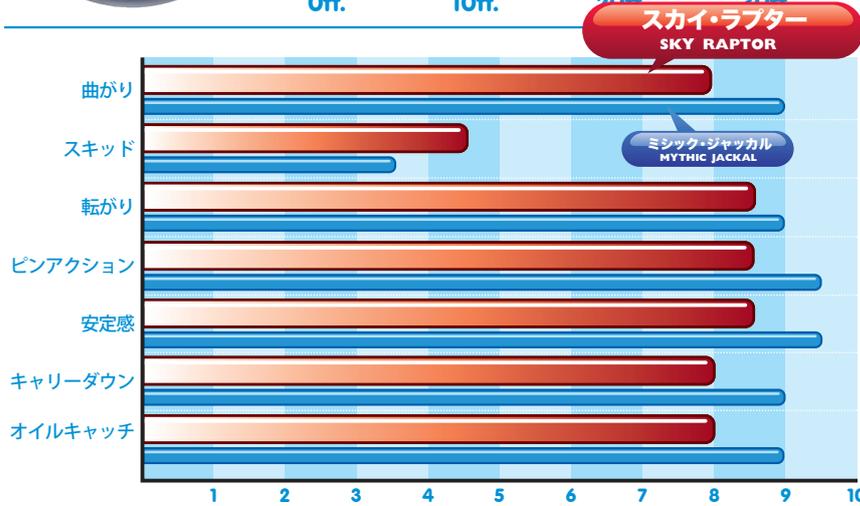
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

RAPTORは2011年7月に発売されたボールで、後に修正されてJACKALへと進化したPredatorコアを使用していました。そのJACKALの前身のボールの復活、それが今回のSKY RAPTORです。注目すべきは新しい添加剤を組み合わせさせたカバーストックで、その名称はDynamic Infusion。今回はそのPearlバージョンが採用されています。Dynamic Infusionカバーストックは、もともと走りを中心とするInfusionカバーストックに、オイルが多い時に対応できるようにバックエンドの反応度を下げずに直進力の中にキャッチを持たせる試みのために生み出されたもので、やや細かくあてられた半曇り状態の5000 Grit LSS仕上げと相まって、バランスがとられています。今回SKY RAPTORに採用されたAffliction V2コアは、VIP Afflictionに採用されたコアをパワーアップしたもので、高い回転性能と高いフレアを与えています。私のSKY RAPTOR投球イメージは、手前にも奥にもオイルを感じるヘビーオイルで使うというイメージではなく、手前のオイルがある所からややドライゾーンに向けて投げられるコンディションが一番しっくりくるイメージがあります。Dynamic Infusionカバーストックは走りを中心としたInfusionの傾向を受け継ぎ、ややキャッチは強くなっているものの手前のオイルが厚いと走る傾向もあるので、手前だけオイルをしっかり使いながらドライゾーンの反応の良さを活かし、オイルを長く使うというイメージよりはドライゾーンへ向けて戻すみたいなライン取りがSKY RAPTORをよりよく使う方法だと思います。表面の加工を行うことで使用できるラインの対応度は広がりますが、先の動きが出るスペックなので、あまり曇らせ過ぎずに使うほうがRAPTORの性能を活かせると思います。

特記事項

やや走り感を感じながら、生命線はバックエンドの強さと言えます。
バックエンドの戻り感が大きく出る性能なので大きく幅を取ることも可能で、重厚感のあるピンヒットが特徴です。